

令和4年度 美術科 授業改善推進プラン

大田区立大森第一中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・課題ごとに資料集の参考ページを紹介し、知識・技術の向上を促すことができた。
- ・発想の面で行き詰まらないよう参考作品を多く紹介し、様々な表現に挑戦できた。
- ・完成させるとはどういうことなのか詳しく解説したことで、全体の完成度が上がった。

(2) 課題

- ・知識・技能がそれぞれの課題でどう生かせるのかを更に理解させたい。
- ・表現に生かせる鑑賞の方法を更に詳しく理解させたい。
- ・全体への指示だけでは活動できない生徒とより上の表現を目指す生徒の両方への指導。

2 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識や技能を吸収しようとする素直さが見られる。一部の生徒には、全体への指示では伝わっておらず、個別で繰り返し伝えることになる。	突出した表現を見せる生徒があまり多くはない。無難なところにおさめがちである。	きちんとできていても自信がない生徒が多い。逆に、全然できていないのに何故か自信満々な生徒もいる。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識も技能もかなり高い生徒が多く見られるが、低い生徒も多く見られる。	面白い感性を持つ生徒が多く見られるが、表現を探求することに投げやりな生徒も多く見られる。また、友達の真似ですましてしまう生徒も見受けられる。	個別にフォローしないと指示を理解できない生徒が複数人いて、更に上を目指したい生徒への指導が手薄になりがちである。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
しっかり知識も技能も身につけている生徒もいるが、知識も技能も全然蓄積できていない生徒もいる。	生徒ごとの違いもあるが、課題によってとても面白い表現ができたり、凡庸な表現にとどまったりとばらつきがある。	熱心な生徒が多く質問の列ができがち。だが一部の生徒は主体性にかけて制作が滞る。人数が多く個別に指導する時間が足りなくなる。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
課題の最初の説明の具体性を高めつつ、作業工程を明示したプリントを配布することで、習熟力の高い生徒が質問しなくても制作を進められるようになり、一度の説明では理解できない生徒へ対応する時間を捻出する。	無難な表現になりがちなので、様々な方向に突出した事例を紹介することで、思った以上に自由に発想しても形にすることができることを理解させる。	人の真似ではなく自分の表現を探求するよう伝える。課題の目的、何時間目にどのくらいまでできているべきか等を、課題の最初の授業時に解説とプリント配布によって明示する。

（2）第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
課題の最初の説明の具体性を高めつつ、作業工程を明示したプリントを配布することで、習熟力の高い生徒が質問しなくても制作を進められるようになり、一度の説明では理解できない生徒へ対応する時間を捻出する。	技法との兼ね合いを考慮して発想する大切さを伝える。友達との真似と思われるデザインは却下する旨を最初に伝える。アーティストの真似をする場合は著作権を侵害しないレベルまでアレンジするよう指導する。	課題の説明の段階で、主体的に学習に取り組むとは、美術において、また各課題ではどういうことを指すのか説明する。それにより生徒全体への理解を深め、一度の説明では理解できない生徒へ対応する時間を捻出する。

（3）第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
課題の最初の説明の具体性を高めつつ、作業工程を明示したプリントを配布することで、習熟力の高い生徒が質問しなくても制作を進められるようになり、一度の説明では理解できない生徒へ対応する時間を捻出する。	課題内容を考慮してデザイン等を考えるよう、また、作品のコンセプトをプレゼンテーションできるレベルまで深堀するように課題の最初に指導し、一度の説明では理解できない生徒へ対応する時間を捻出する。	課題の説明の段階で、主体的に学習に取り組むとは、美術において、また各課題ではどういうことを指すのか説明する。それにより生徒全体への理解を深め、一部の主体性に向け制作が滞る生徒へ対応する時間を捻出する。